

平成28年度(第6期) 事業計画書

(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

公益財団法人松下社会科学振興財団は、平成22年9月22日に京都府より財団法人から公益財団法人への移行の認定書を受領し、今年度は第6期を迎えます。

財団法人松下社会科学振興財団は、平成4年に設立され、平成6年に松下幸之助生誕100年を記念して開設された「松下資料館」の管理と運営を活動の主体としており、公益財団法人への移行後も事業内容はそのまま引き継がれております。

平成25年11月に木津川市から京都市に移転してまいりましたが、交通の利便性にも恵まれ松下資料館への来館者数は順調に増えており、平成27年度は6,300名、前年度比130%となる見通しです。また、開設から平成27年度末までの来館者数累計は90,800名となりました。

特に、京都観光の一環として来られた個人・小グループの方々や日本企業視察に来られた中国の団体の方々の増加が顕著でありました。

本年度は、「公益財団法人」として6期目に入りますが、平成27年度に導入致しました「タブレット視聴システム」の利用促進による来館者の増加をさらに図るとともに、1年間実施してまいりました「これからの日本的経営を考える」研究会の研究レポートの作成に注力してまいります。

また恒例となりました講演会につきましても、平成28年2月に実施し、松下幸之助のファンづくりを行ってまいります。

同時に展示映像機器も導入して8年を経過し老朽化してまいりましたので、導入後10年を目途に機器入替えの準備をしてまいります。

一方、本年度の金融情勢につきましては、ギリシャに端を発したヨーロッパの金融不安、中国の情勢も流動的であり昨年にもまして為替変動が大きくなる可能性があります。

こうした中であって当公益財団は引き続き「債券運用管理基準」に基づいた堅実かつ安全な資金運用に努め、財務内容の健全化を図るとともに、一層の経営基盤強化に努めてまいります。

I <松下幸之助 “経営の道” 展示事業>

1、記念講演会の実施

松下幸之助により関心をもってもらいファンづくりをするために講演会を実施してまいります。

- ・実施日 平成28年2月26日
- ・会場 株式会社 PHP 研究所 7階ホール
- ・テーマ 「祖父・松下幸之助から学んだこと」
松下正幸（公益財団法人松下社会科学振興財団 代表理事）
- ・主催 公益財団法人 松下社会科学振興財団
- ・後援 株式会社 PHP 研究所

- ・松下幸之助著「道をひらく」の一節を朗読し講演会で流す
※女優が朗読したものを録音・編集する
※朗読の音源は展示コーナーで二次利用を予定

2、「タブレットによる視聴システム」の利用促進

—展示内容のさらなる充実化に向けて—

松下幸之助に関する資料を、手軽にタブレットでみることができる視聴システムを平成27年度に導入致しました。

今期はその利用促進を図り、さらに来館者の皆様に大きな感動を与えるよう努め、来館者増を図ってまいります。

・タブレットのコンテンツ概要

- ① 早わかりキーワード集（約500項目）
- ② 感動のエピソード集（10項目）
- ③ 写真で見る松下幸之助（約100枚）
- ④ 松下幸之助の本（55種類）
- ⑤ 松下幸之助関連のWEBサイト紹介（6団体）

- ・タブレットの利用促進

- ① 設置場所 展示コーナー 3 台 図書コーナー 4 台
- ② ホームページ、掲載マスメディア等で紹介
- ③ 受付や講話で利用促進

Ⅱ＜日本の経営に関する研究事業＞

1、日本の経営を考える研究会の総括

平成27年度1年間、有識者にお集まりいただいて実施してまいりました“これからの日本的経営”の研究会の仕上げとして、6名のメンバー全員に研究レポートを執筆していただき、論文集を作成してまいります。

- ・研究テーマ：グローバル化時代における「人間尊重の経営」とは

- ・コアメンバー

太田 肇氏（同志社大学 政策学部 教授）
川上恒雄氏（PHP研究所 松下理念研究部 主席研究員）
篠原健一氏（京都産業大学 経営学部 教授）
松山一紀氏（近畿大学 経営学部 教授）
三輪卓己氏（京都産業大学 経営学部 教授）
顧問：萩尾千里氏（大阪国際フォーラム 会長）

- ・論文集（研究レポート）：平成28年8月発行予定

- ・翌期（7期）成果発表のための準備

- ① 単行本の出版（一般向けに編集）
- ② 発表会・講演会
- ③ 松下資料館ホームページ掲載

Ⅲ＜経営図書館事業＞

昨年に引き続き「現代経営に役立つ経営図書館」をめざし、質の高い蔵書体系を構築してまいります。

・現状の蔵書数（ビデオ・カセット含む）		約 21, 000 冊
内	松下幸之助関連本	約 1, 500 冊
	会社社史	約 3, 100 冊
	経営者伝記・執筆本	約 3, 500 冊
	経営書・経済書	約 6, 600 冊

今後は「会社社史」「経営者執筆本」を中心に経営図書館の充実をより一層図ってまいります。

Ⅳ＜その他＞

松下資料館の展示映像機器は8年を経過し老朽化が進んでまいりました。そのため導入後10年（平成29年度）を目途に機器入れ替えを予定し、将来性を見据えたシステムの検討及び機器選定等の準備をしてまいります。